

書を観て感有り (朱熹)

昨夜江邊春水生 蒙衝巨艦一毛輕
向來枉費推移力 此日中流自在行

解説 読書について感じたことを、水に浮かぶ巨艦にたとえて述べたもの。

昨夜 江辺 春水 生ず

語釈 ※蒙衝||軍用船。敵船を突破する堅牢な船。※向來||これまで。

※枉||むだに。やたらに。※推移||移りかわる。

蒙衝 巨艦 一毛 輕し

※中流||流れの真中。※自在||自由。

向來 枉げて 費やす 推移の力

通釈 昨夜の雨で、川のほとりは春の水が多くなっている。軍用船の巨艦も、あたかも一本の毛のように軽々と浮かぶであろう。

此の日 中流 自在に 行く

これまでは水量も少なく、軍用船を動かすのにやたらに時間や力がかかったが、この日は、流れの真中へ自由自在に行くことができた。学問もこれと同じで工夫して、その本質をつかめば容易に理解していくことができる。